

# 「総ぐるみ」新聞

## 日限山荘で昼食を一緒にしませんか

「昼ごはんを作つて皆さんと一緒に食べています」

十月から、ほんとうに簡単なメニューですが昼食をスタッフ作り、いらつしゃった方達でワイワイいっしょお昼ごはんを食べています。

毎週火曜日、金曜日に、なんの気取りも、気遣いもなく家族的な昼食会を行っています。たいてい十人くらいの方が集まっています。お昼を作るのが面倒だとか、一人で食べるのはつまらない等と思われたときには、十一時半くらいまでに日限山荘にいらしてください。

「庭の柿とみかんをとったわ、お菓子が家にあったから持ってきたわ」とテーブルに並びますので、たいていデザートも何かあります。一緒に「お昼ごはんを食べましょう。食後のおしゃべりや碁やオセロが楽しいですよ」

ちなみにメニューの一例を示しておきましょう。

天ぷらそば・肉ジャガときゅうりもみ・豚肉の冷しゃぶと厚焼き卵付き冷や麦・ハンバーグにちくわとネギの和え物・焼きそば・等

費用として三百円をいただいています

なお、一ヶ月に一回は少し豪華な「馳走メニュー」でお食事会をしています。ご参加は開催日を予定表でご覧になり、日限山荘開催日にお申し込みください。

費用は千円をいただきます。地域の方の手作りです。

### 総ぐるみ福祉の会の理念

『地域の住民が“総ぐるみ”で知恵と力を投入し、地域に根ざした介護・介助サービスを提供することによって、すべての人々が、健やかに暮らせる地域社会を作っていく』

### こんなことをお引き受けします

\* 介護保険による居宅サービスの提供  
(総ぐるみ福祉の会は介護保険事業者の資格を持っています。ヘルパーが15人います)

\* 介護保険の対象とはならない生活援助・身体介護の提供(掃除・洗濯・買物・炊事・草取り・窓ふき・来客の接待・通院介助・外出介助など)(有料)

\* 日限山荘を拠点とした娯楽・交流などの行事の提供

\* 「介護認定を受けようか、なんだか面倒くさそうだな」と考えていらつしゃる方が多いと思います。そんな方のために総ぐるみ福祉の会は介護保険の認定をとる最初の取っ掛けのお手伝いをします。

\* その他、何でもお気軽にご相談ください。

お問い合わせは

844-7477

### 日限山荘11月の開催日

開催時間(午前10時~午後4時)

19, 23, 26, 30日

昼食とおしゃべりと囲碁・オセロ

26日 お花のお稽古

庭にあるお花を上手に生けましょう

無料でお教えます

お庭にお花の方あるはお持ちください

### 日限山荘12月の開催日

開催時間(午前10時~午後4時)

3日(金): お花のお稽古

7日(火) 10日(金): 食事会

14日(火) 17日(金): お花のお稽古

21日(火) 24日(金)

昼食とおしゃべりと囲碁・オセロ

3, 17日はお花のお稽古です

10日は会費千円の少し豪華な昼食会です

### よろしくお願いします

昼食会のお料理を作つてくださる方いらつしゃいませんか? 材料費は負担しますが、作る作業は無料のボランティアです。作つてくださる方を捜しています。作つてくださる方のご連絡をお待ちしています。連絡先: 844-7477(宮崎浩子まで)

NPO総ぐるみ福祉の会 事務所は日限山44・23の宮崎宅です。入会や活動等については、宮崎浩子(844-7477)、増澤喜一郎(844-9084)、大橋綾子(823-2663)、菅沼永子(844-9193)、米川満寿子(841-9433)、菊地幸子(841-4882)にお問い合わせください。日限山荘でも受け付けています。

## 多事なる今年の秋に思う

岡 光枝

今年はことのほかの酷暑の多い夏も終わり、待望の秋には度重なる台風が襲来して、秋を楽しむことが少なかったように思えます。

それに加えて二十三日の夕刻のテレビは、新潟県中越地方の大地震のニュースを突然に伝えて来ました。「ええっ」と驚きのうちに、夜更けまでテレビの画面を見つづけました。私達は事無く居ても災害に遭われた方がたのことを思つと、心を安んじては居られません。

しかし、気分を変えて、今年の十五夜の月の美しさを思い出していました。

銀白色に輝く月の光は皓皓と宵の空を明るく照らし静かな安らぎの時間を与えてくれました。就寝前にもう一度と雨戸を開けて夜空を見上げますと、月は高い空に移り白色を増して輝きつつ「静かにおやすみ」と語りかけてくれるようでした。

恐ろしい台風がきたり、地震があったり、私達にこよない安らぎを与えてくれる天空のページェントなど、天地の営みはおしなべて、何かの大きな力によるサイクルによって動かされているのではないのでしょうか。大自然の前に心を謙虚にして

思つとき私達は自分の意志以外の大きな力の働きによって、今日迄生かされているように思えてなりません。

私自身若い壮年の日はすでに過ぎ、今は老年な



るが故に知る楽しみ、良き、ときには悩みなどを味わいながら、毎日を暮らしています。

世の中の発展進歩の中にあつて「ひずみ」の部分のあることは仕方がないことかもしれません。しかし、このような状態の中にあつて、静かで平穏な日限山地区に暮らす私達は地域から受ける恩

恵を思わざるをえません。この地域にあつて、老人達がより快適に暮らせるようにと、志高く行動を起こされた方がたに敬意を表します。二年前に日限山地区に誕生し、懸命に福祉に取り組んで居られる「NPO 総ぐるみ福祉の会」も、このような理念によって創られたものと思はれます。

私も、総ぐるみ福祉の会のお世話を受けて居り、時折行われる会食などの催しにも出席し、楽しい交わりのひとときを過しています。老人達の生活の助けにといろいろとお心を用いられている会のスタッフの方々には感謝をもって応援をいたしたく思っています。

人間、この世に生を受けたからには何か使命がある筈です。大分以前、日野原重明先生がテレビで講演されて、老人達におくることばとして、愛すること、創めること、耐えること、と、お話しされたことを記憶しています。この言葉は現在の私の生活の指針となっています。時には慰めと、又自戒の言葉でもあります。私も九十一歳をむかえ世を去る日を待つては居りませんが、その時が確実にくることを知っています。命つきるそのとき迄、人間らしく人格を全うしたいと、この晩秋の静かな一刻に思ひをいたして居ります。

(写真中央が筆者)

10月のいづき会秋の旅行より)